

創世記1章26－28節 「神の像（かたち）」

1A 「われわれ」

1B 交わりへの招き

2B 創造者としての似姿

2A 「かたち」

1B 神のような異教の王たち

3B すべての人

3A 人と偶像

1B 御使いよりやや劣った者

2B 自分を引き落とす行為

3B 神のかたちキリスト

4A 神の祝福

1B いのち

2B 共創

本文

創世記 1 章を開いてください。私たちの聖書通読が、創世記から始まります。今朝は、1 章 26-28 節に注目します。「²⁶ 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」²⁷ 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。²⁸ 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

みなさんのご存知のように、創世記は、神の天地創造から始まります。その創造の傑作品が、私たち、人です。人をご自分のかたちに造られたとあります。

ところで、私たちの教会では、礼拝後に分かち合いの時を持っていますね。信仰によって与えられたことを、互いに分かち合って、その時に、主からの気づきが与えられます。けれども、私は、未信者の方々からも、時に気づきが与えられます。私たちは前提にしている知識がないので、正直に物事を見つける時に、「なるほど、そのように見えるのも仕方がない」と気づく時があります。

イスラム思想研究者の飯山陽さんが、「動物が好きです。人間は微妙です。」という題名で記事を書いたことがあります。「ありとあらゆる生き物、動いている物が好きなそうです。神様が造られたものとして、喜んでいます。「人間も生き物です。しかし私は、人間のことを無条件に好きですと

は言えない。神様が人間をこうお創りになったのだから仕方ありません。いや、人間を好きだと言えない私に問題があるのでしょうか。」¹これは、はっと気づかされます。すごい素直な信仰を、神の被造物に持っていますが、人間については微妙なのです。

これは、ものすごく分かります。創世記 1 章を見ると、主は他の生きているものをすべて造られて、そして、人については、ご自分のかたちに造られました。そして、神のかたちに造られたのであれば、なおさらのこと好きになるはずです。けれども、どうしてもそのように言えないということです。

それもそのはずです。人は神のかたちに造られていますが、だからこそ、動物よりも、しばしば最低な行動を取るものです。高原剛一郎さんの新著「世界は聖書でできている」には、人が、「落ちぶれた貴族」と表しています。神が持つ特徴を、人は持ち合わせています。知性、感情、自由意志、創造性の片鱗が、人間に宿っています。ところが、動物でも決してしない、最低のこともします。動物の世界で、同種同士の殺し合いはあまり見られませんが、人間は 600 万人のユダヤ人を殺すなど、同じ人を大量殺戮しました。

そして、自然界では生存本能に従って生きると種族保存につながりますが、人間は本能のままに暴走すると、むしろ不幸を生み出す、と言っています。そしてこう言っています。「人間は存在の深い部分に、自分ではどうしようもない根本的な欠陥を抱えているようです。」²

奴隷であれば、本人のした過失はその人が落ちぶれるだけで済みますが、貴族や王であれば、その人が落ちぶれると、周りが大いに迷惑がかかるのです。与えられた恵みや特権は、とてつもない浪費となります。それが人のありのままの姿であり、神のかたちに造られているがゆえ、過ちを犯すと、本人だけで終わらない不幸が待っています。それが、聖書の話の始まりとも言えるでしょう。神の代表、王のような存在が、落ちぶれて、しかし、いかに回復するか、という話です。

1A 「われわれ」

1B 交わりへの招き

初めに、主なる神は、「**われわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう**」と言われています。聖書全体で、神は唯一であることで統一しています。けれども、ここで「われわれ」という複数形で、ご自身を呼んでおられます。

ここは、いろいろな解釈があります。例えば、これは、神とその周りにいる御使いたちの会議だという見方があります。イザヤ書 6 章 8 節には、同じくイザヤに、主が「**だれを、わたしは遣わそう。だれが、われわれのために行くだろうか。**」と言われています。その前にはセラフィムが飛んでい

¹ <https://note.com/iijamaakari/n/n3caa66479849>

² 「世界は聖書でできている」高原剛一郎著 239 頁

ます。ですから、主が、御使いたちを含めて「われわれ」と呼んでいるということです。これも一理あるでしょう。

けれども、27 節を見てください。「**神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された**」とあるのです。神のかたちの中に、男だけでなく女もあり、神は 2 章で、男はひとりであるのは良くない、と言われています。そして 2 章の終わりには、「2:24 **ふたりは一体となるのである**」とあります。この「一体」は「一つ」という意味で、神がご自身を唯一と呼ばれる時に使われる言葉です。つまり、これは交わりにおいて一つになっている、ということです。

唯一の中に、複数があるということです。一つの手に、五本の指があります。一足の靴には二つの靴があります。一対、あるいは一体となって一つとなっています。そういった一つに結ばれていることにおいて、そのかたちに似せて、人を造ろうと言われているのです。

午後礼拝でじっくりと学びますが、創世記 1 章において、すでに父なる神、子なるキリスト、聖霊が登場しています。神の霊が動いていますし、この創造には知恵が働いていることが、箴言に書かれています。その知恵によることばが、キリストご自身です。われわれというところに、三位一体の神がおられるのではないかと見ます。男と女が対等でありながら、女が男の助け手であるように、父、子、聖霊はそれぞれが神であり、同等でありながら、秩序においては、子が父に従い、御霊は父と子に遣わされています。その秩序において交わりがあります。その交わりが、「われわれ」という言葉に含まれているのではないかと思います。

したがって、神のかたちには、本質的に交わりへの招きがあるのです。「Ⅰコリ 1:9 神は真実です。その神に召されて、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられたのです。」「Ⅱコリ 13:13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。」主イエスが、捕えられる前に父なる神に祈られたのは、一つになるように、ということでした。「ヨハ 17:22 またわたしは、あなたが下さった栄光を彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。」

神が、みなさんを造られたのは、この交わりにある喜びです。神のかたちという中に、私たちが交わりの中に入れられていて、その中で生きるときに、神のいのちを宿すことになります。

2B 創造者としての似姿

そして、神のかたちには、「創造者としての似姿」があります。26 節に、「**こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう**。」主が、第一日目から六日目まで、天と地を造られました。その中でも、第五と第六の日に造られた、すべて動く生き物を支配するように任されます。主が造られ、支配されているものを、人が管理するよう

に召しておられます。

そこには、先にお話したように、最高の知性があります。知性がなければ、これら秩序あるものを造ることはできず、また名づけることもできません。そして、最高の感情や美の感覚があります。造られたものを「良かった」と言われているところに、表れています。そして、最高の自由意志があります。ご自身のみこころのままに、これらのものを造られました。こうした知情意がすべて、備えられて、それで、これら動くものを支配することができます。動物園で、飼育している人たちを見るとよくわかりますね。その生態をしっかりと見て、愛情を注いで、それでもって管理していくのです。創造主のかたちだからこそ、できるわざです。

2A 「かたち」

1B 神のような異教の王たち

ところで、この「かたち」と、新改訳に、平仮名で記されている言葉ですが、実は、ヘブル語では「偶像」の「像」と同じ言葉になっています。ツェレムと言います。当時、古代ではツェレムは、王などの上流階級を指す言葉でした。創世記は、モーセが書いたことを思い出してください。ですから、これを初めに聞いたイスラエルの民は、ファラオなどのことをすぐに思い出すわけです。当時、エジプトなどの古代の国では、神の像が至聖所に置かれていました。それがツェレムであり、同時に、ファラオのような王が、神の化身であり、絶対的な主権者、権力者であり、下々のイスラエル人は、彼に従属するしかありませんでした。

3B すべての人

しかし、人はそもそも、神のかたちに造られたのだと主は宣言されるのです！ 私たちは、黙示録を学びました。そこでの約束は、私たち一人一人が王になることでした。「22:5 彼らは世々限りなく王として治める。」一人一人が、神の王族の子として造られたのです。どんなにか、神は私たちに良くしてくださり、喜んでおられて、すべてを恵み、施しておられるでしょうか！「イザ43:4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」私たちの価値は、私たちの持っているものや、身分や、生活、社会環境にあるものではありません。神のかたちに造られた、ということにあるのです！そして、キリストにあって、私たちは神のかたちに回復します。

3A 人と偶像

そして、当時の人々は、神の像を至聖所に安置していました。けれども、「像は、あなたたちだよ！」と言っているのが、ここで神がイスラエルの民に語られていたことなのです。像を人が造るのではなく、人がすでに神の像なのです。目に見えない神が、目に見える人によって、その栄光を表し、その力や知恵が恵みによって注がれているのです。偶像の何がいけないのか？といいますが、自分自身が神のかたち、像なのに、代わりに石や木のような、人の尊厳から見たら、あまりにも粗末なものに取り替えてしまっているからなのです。

1B 御使いよりやや劣った者

主から、私たちがどれほど尊く見られているか、思い巡らしてみましよう。それが、交読文の詩篇 8 篇です。「8:3-8 あなたの指のわざである あなたの天あなたが整えられた月や星を見るに 4 人とは何ものなのでしょう。あなたが心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたが顧みてくださるとは。5 あなたは人を御使いよりわずかに欠けがあるものとし これに栄光と誉れの冠をかぶらせてくださいました。6 あなたの御手のわざを人に治めさせ 万物を彼の足の下に置かれました。7 羊も牛もすべてまた野の獣も 8 空の鳥 海の魚 海路を通うものも。」

栄光と誉れの冠をかむっているのです。世の中では、どんなにクズ呼ばわりされようが、まるで機械のネジのように見なされようが、使い捨てのようにされようが、あなたには、月や星も、空の鳥や海の魚も、野の獣のも与えられているのです！

2B 自分を引き落とす行為

しかし、人は、その神を見ないで、自分の思いで暗くなり、それで代わりの像を拝むようになりました。その像は木や石、金や銀で造られており、自分よりも劣っているのです。屑のようなものに、金銀より高価な、自分の魂、尊厳を売るようなものです。「詩 135:15-18 異邦の民の偶像は銀や金。人の手のわざにすぎない。16 口があっても語れず目があっても見えない。17 耳があっても聞こえずまたその口には息がない。18 これを造る者もこれに信頼する者もみなこれと同じ。」

自分の目と似たものが偶像にはありますが、自分は見えているのに、相手は見えていません。耳もありますが、私は聞こえています、相手は聞こえません。口もありますが、相手は話せません。なのに、それに仕えているのです。そして、拝んでいるうちに、ついに自分も見えるものが見えなくなり、聞こえるものが、聞こえなくなり、語れるものが、語れなくなるのです。同じようになっているのです。自分で自分を引き落とす行為をしているのです。

3B 神のかたちキリスト

しかし、私たちこそが、神のかたちなのです。私たちによって、目に見えない神が見えるのです。そこまで高尚な召しを私たちは受けているのです。これは、完全に神の恵みです。

そこで主は、ご自身の独り子、キリストをくださったのです。この方が、神の本質を完全に現した現れなのです。「ヘブル 1:3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり」キリストにあって、私たちは神のかたちを取り戻すのです。この方にあって、神の王子となることができるのです。主は、「わたしを見た者は、父を見たのです。」と言われました。同じように、私たちは、私たちを見れば、主イエスがおられることが分かるということです。聖霊の力によって、イエスが生きておられることを、証しするのです。

4A 神の祝福

そして、28 節を見てください。「神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

1B いのち

ここでの祝福は、生めよ、増えよ、地に満ちよ、です。これは、男女間の交わりによる出産、つまり肉体のいのちのこともありますが、その背後には霊的ないのちがあります。神の霊のいのちが、どんどんあふれて、流れて行っているのです。神ご自身がいのちであり、私たちはキリストにあって、そのいのちを持ち、この方との交わりによって、それがあふれ流れます。聖霊によって、あふれ流れる約束を、主イエスがしてくださいましたね。

2B 共創

そして祝福は、支配するところにあります。「地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ」と言っていますね。主が治め、私たちが共に治めます。共創なんていう、日本語がありますね。共に創造するという意味です。主の創造に、私たちが関わるのです。そして、神の支配される国が、広がっていきます。インフルエンサーなんていう言葉がありますが、神は、私たちを神のインフルエンサーにしたいと願われています。

3 章を見れば、人がその立ち位置から外れてしまう話を読みますが、キリストにあって私たちはその創造が開始されているのです。新しい創造です。「Ⅱコリ 5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」あなた自身が、新しい創造です。神のかたちに回復されるのです。そうして、その創造は、主がすべてを新しくする終わりに向かって、進んでいきます。ご自身が置かれているところで、キリストにある創造、そのいのちを表してください。信仰によって、神の恵みに立ってください。主は、必ず祝福されます。